

## 創造: Creation

第1日目: はじめに神は天と地とを創造された。地は形なく、むなく、やみが淵のおもてを覆っていた。まず、神は光を創造された。そして光とやみとを分けられ、光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。

第2日目: 神は大空を造って、大空の下の水と大空の上の水とを分けられた。神はその大空を天と名づけられた。

第3日目: 神は天の下の水を一つ所に集め、かわいた地が現れさせた。神はそのかわいた地を陸と名づけ、水の集まった所を海と名づけられた。神はまた、地は青草と、種をもつ草と、種類にしたがって種のある実を結ぶ果樹とを地の上にはえさせた。

第4日目: 神はまた、天のおおぞらに光を。そして、昼と夜とを分け、しるしのため、季節のため、日のため、年のためになり、天の大空にあって地を照らす光とした。神は二つの大きな光を造り、大きい光に昼を、小さい光に夜を治めさせた。また星を造られ、これらを天の大空に置いて地を照らさせ、昼と夜とを治めさせた。光とやみとを分けるようにされた。

第5日目: 神はまた、水は生き物の群れで満ち、鳥は地の上、天のおおぞらを飛び、海の大きい獣と、水に群がるすべての動く生き物を、種類ごとに創造された。また翼のあるすべての鳥を、種類ごとに創造された。神はこれらを祝福して、「生めよ、ふえよ、海の水に満ちよ、また鳥は地にふえよ」と言われた。

第6日目: 神はまた、地は生き物を種類ごとに、家畜や、這うもの、地の獣を種類ごとに生じよ、と言われた。神は地の獣を種類ごとに、家畜を種類ごとに、地を這うすべての物を種類ごとに創造された。神はまた、「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を創造し、これに海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものとを治めさせよう。」と言われた。神はご自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。神は彼らを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物と支配せよ」。神はまた言われた、「わたしは全地のおもてにある種をもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたがたに与える。これはあなたがたの食物となる。また地のすべての獣、空のすべての鳥、地の上を這うすべてのものに、食物としてすべての青草を与える」。

第7日目: こうして天と地と、その万象とが完成した。神は第七日にそのわざを終えられた。すなわち、そのすべてのわざを終って第七日に休まれた。神はその第七日を祝福し、これを聖なる日とされた。神がこの日に、なさっていたすべての創造のわざを終って休まれたからである。これが天地創造の由来である。主なる神が地と天を創造された時、地にはまだ野の木もなく、野の草もはえていなかった。主なる神が地に雨を降らせず、また土を耕す人もいなかったからである。ただ、地から泉がわきあがって土の全面を潤していた。主なる神は、大地のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹き込まれた。それで人は生きた者となった。

コメント: 使徒の働き 17章 24～26【この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手で造られた宮にお住みになりません。また、何かが足りないかのように、人の手によって仕えられる必要もありません。神ご自身がすべての人に、いのちと息と万物を与えておられるのですから。神は、一人の人からあらゆる民を造り出して、地の全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、住まいの境をお定めになりました。】

「神」と言えば、天地創造の神です。人はそれを金や銀や石、人の技術や、人の考えで造ったものを神とします。聖書には、国によっていろいろな神が出てきます。エジプトでは「金の子牛」、カナンでは「女神アシュタロテ」「男神バアル」、エペソでは「女神アルテミス」等々。聖書は、それらをみな、偶像と呼びます。

神は人を創造し、全地を支配するようにされました。神のかたちに人を創造されました。神は人に、物事を考える能力と物を創造する力量を与えました。また、人には知恵があります。しかし人は、その知恵を用いて偶像を作り出しました。今もなお、偶像を作り続けています。それを神は喜ばれません。そのほか、人の心に浮ぶものに何があるでしょうか。